

## 第 3 2 回 吹田市立図書館協議会（会議録要録）

平成 23 年（2011 年）5 月 18 日（水）

午後 2 時～

中央図書館 3 階第 2 集会室

出席者

委 員）坂本委員、末岡委員、島村委員、正置委員、藤井委員、渡邊委員、太田委員、  
篠田委員

事務局）梶谷地域教育部長、小池地域教育部次長、竹村中央図書館長、竹村参事、金森  
千里図書館長、宮東さんくす図書館長、櫻井江坂図書館長、長島千里山・佐  
井寺（ちさと）図書館長、西尾山田駅前図書館長

傍聴者：1 名

### 第 3 2 回 図書館協議会次第

#### 1. 新委員紹介

#### 2. 平成 23 年度図書館費予算について

#### 3. 「平成 23 年度吹田市立図書館の基本方針と目標」について

#### 4. 今後の図書館施設整備やサービス展開の方向性について

#### 5. その他

(1) 山田駅前図書館の開館以降の運営状況について

(2) 吹田市と豊中市の広域利用（試行）の運用状況について

(3) 次回の日程について

(4) その他

議 長）ただ今から第 32 回吹田市立図書館協議会を開催いたします。よろしくお願  
いいたします。

事務局にお尋ねいたしますが、傍聴希望の方はおられますか。

事務局）1 名の申し込みがあります。

議 長）傍聴規定に基づき入室してもらってよろしいでしょうか。

委 員）異議なし。

議 長）傍聴 1 名を認めます。

議 長）それでは、会議次第に従って議事を進行していきたいと存じます。事務局より  
配布資料の確認と人事異動の紹介をお願いします。

事務局）《配布資料の確認と、出席状況および人事異動の報告》

議 長) それでは**次第の1 新委員紹介** を事務局にお願いします。

## 1 新委員紹介

事務局) 《新委員の紹介》 ...略...

## 2 平成 23 年度図書館費予算について

議 長) 次に、平成 23 年度図書館費予算についてに移りたいと思います。事務局のほうから説明をお願いします。

事務局) それでは「平成 22 年度図書館費 3 月補正予算（歳入）抜粋版 吹田市立図書館図書充実事業（住民に光を注ぐ交付金活用事業）」についてと「平成 23 年度図書館関係費当初歳出予算」についてご説明いたします。本来であれば、2 月の協議会でご説明するところでしたが、都合により資料作成が間に合わなかったことをご了承ください。補正予算は 2265 万 2 千円の増額補正で、住民生活に光を注ぐ交付金活用事業でございます。事業概要は、山田駅前図書館の図書の充実を中心にして、各図書館の充実を図るものでございます。平成 23 年度当初予算については、人件費・物件費・普通建設事業費ごとに、20 年度から 23 年度の 4 年分を載せています。平成 23 年度は対前年比約 4 億円の減額。主な理由は山田駅前図書館整備事業の終了による 6 億円の減額によるもので、委託料の 8000 万円の増額は、千里山・佐井寺と山田駅前の各図書館と山田分室の業務委託料によるものです。人件費は、職員 57 人分、非常勤 29 人分、臨時雇用員は繁忙時・毎日開館・夜間開館のための経費です。物件費のうちの施設管理事業費では清掃・警備の委託料と光熱費など施設の維持管理のための予算をあげております。貸出・閲覧事業費では図書購入費、窓口委託料、電算システム経費などを、また主催事業には図書館協議会委員報酬や講師謝礼などを計上しております。トータルで約 4 億 4000 万円の減額となります。普通建設事業費は（仮称）千里丘図書館の建設工事費でございますが、8 月から着工し工期は約 1 年の予定でございます。工事費総額は 3 億 4980 万円になります。

議 長) 報告について、何かご意見ご質問はございますか。

委 員) 山田駅前の開館と（仮称）千里丘の説明が入っていてわかりにくいですが、既存の図書館への予算は、以前と比べて手厚くなったのかどうか。

事務局) 当初予算のうち、人件費・物件費が図書館費にあたるので、両者の合計でみれば年々増加しています。今年度については、新施設（山田駅前）ができたための経費増が主な理由となります。図書購入費自体は前年度の水準は確保しております。

委 員) 光交付金は図書費になるのか。装備代等は含まれないのか。府立図書館も

1000万円ついている。製本費と図書費であげろといわれたが、時間がなくなり全額図書費になった。

事務局) 従前より、定価購入に装備代が含まれており、マーク代は全館でまとめて購入しているため、光交付金で購入した本に関するマークや装備費用は発生しません。すべて図書費に含まれているものと、ご理解いただいて結構です。

委員) 図書は随意契約か入札か。

事務局) 地元産業振興のため、定価購入だが、実質は装備による値引きをしてもらっており、装備とマークと本の一体的納入で、随意契約となっております。

委員) 図書費は昨年なみということだが、人件費やサービスの業者委託が増えている。行事の際の交通費などの増額は出されていないか。

事務局) 交通費は講師謝礼に含めて考えるのが市の基準となっております。

委員) 主催事業費がほぼ同じ額で推移しているが、増額の論議はされていないか。

事務局) ここ数年は予算総額は増やせないのので、何かを増やせば何かを削るという工夫をせざるを得ない状況です。結果的に、実質の講座の回数に合わせた予算額になっています。

### 3 「平成 23 年度吹田市立図書館の基本方針と目標」について

議長) 次に、「平成 23 年度吹田市立図書館の基本方針と目標」について、事務局の説明をお願いします。

事務局) 基本方針や運営方針につきましては前年度と変わりません。主な事業計画では全館的課題をより明らかにすると共に、今後の施設整備のあり方を念頭に置きながら、分室の運営は各地域館にまとめ、現在行っている各種サービスを整理・体系化し、地域館がより一層効率的に力を発揮できるように補強をいたしました。まず最初に(1)東日本大震災復興支援をあげました。(2)千里図書館の整備、(3)(仮称)千里丘図書館の建設、(4)図書館の広域利用(相互協力)、(5)大学図書館や類縁機関との連携は、従前の協議会での報告事項のため割愛させていただきます。(6)学校との連携並びに読書環境の整備について。(7)第2次子ども読書活動推進計画の策定などの児童奉仕関連ですが、以前より課題となっております学校との連携や、児童館や保育園、などを含めた子どもの読書活動を総合的に支援していくことが、これからの児童奉仕の方向性だとの考えから、現在行っている各種サービスを整理・体系化し、地域館がより一層効率的に力を発揮できるようにしていきたいと考えております。子ども読書推進計画の改定につきましては、生涯学習推進本部を中心に、子育て支援課などを含めた全庁的な会議の推進に取り組んでまいります。(8)レファレンス事例や郷土資料データベースの充実について、(9)障

がい者サービスの充実、(10)ボランティア人材の育成と市民との協働の拡充など、一般奉仕に関わる部分でございますが、レファレンスや地域資料の収集と保存に力を入れながら、障がい者サービスのボランティアさんを含めて、市民との協働をより一層進めていく計画です。(11)各種図書館講座の充実と文化行事の実施ならびに、(12)図書館 PR の充実と文部科学省の「図書館海援隊」プロジェクトへの参加では、新規利用者の開拓とリピーターの確保に向け、どのような取り組みや仕掛けが出来るのかが問われていると思っています。今まで好評だった講座や文化行事を継続するとともに、地域に支持される課題解決型図書館の実現を図るべく、文部科学省の「図書館海援隊プロジェクト」参加を目指して、ガンバ大阪との共同事業を進めます。(13)貸出冊数の目標値設定では、これは現在本市が施政推進の柱としております第3次総合計画の策定の際に議論がされた、計画年度の間地点にあたる平成25年度の到達目標となるものですが、茨木・豊中などをお手本に市民一人当たり年間貸出冊数を10冊と設定しているものでございます。現在より約120万冊の上積みが必要ですが、(仮称)千里丘図書館が供用開始し1年を経過します平成25年度末には、既存館のより一層の努力を含めて達成していけるのではないかと考えております。一番の要素は資料費の確保と思っております。(15)中央図書館の建替えと、(16)吹田市立図書館施設整備構想(案)の策定に関しては、今後図書館協議会に諮っていきたいと考えています。なおこの奉仕計画の正式発表は、統計数値の確定の問題から夏ごろ発表予定の「吹田市の図書館活動」の完成と同時にさせていただきます。

次に、中央図書館の運営についてご説明いたします。対前年度の貸出冊数が約9万冊増えております。これには他市図書館からの協力貸出を受けた分と、Web上からの借出期間延長手続き分を、平成21年度のコンピュータシステムの更新を機会に、正確に記録出来るようになったことによる増加分約4万冊が含まれております。中央図書館には、自動車文庫の基地と全館をまとめていく機能、並びに本来の地域館としての機能の3つが求められます。古くて狭い建物ではありますが、地域資料の収集とレファレンスデータベースの構築等の中央館的役割を担いながら、約29万冊の貴重な資料を活用して、質の高い資料並びに情報の提供に努めてまいりたいと考えています。また全館の活動の発展のカギを握るボランティアの育成と協働に力を入れて、全市的な一般・児童の両サービスのより一層の発展を支えていきたいと考えています。

事務局)今年度から北千里分室が千里図書館の分室になった。千里ニュータウン地域を一体になってカバーしていく。高齢者率が3割以上と高い地域のため、高齢者サービスとして、大活字本の充実、文字の大きな図書への買い替え、

健康・医療情報コーナーの設置。高齢者の活動を支援する講座や、地元の歴史を学ぶ講座など、生きがいを支援できるような講座の開催を行っています。また、留学生会館があり、多文化サービスに力を入れているが、一般利用者へのサービスにも配慮しながら、外国語習得のための資料収集や棚づくりとともに、PRの工夫をしていきます。北千里分室についても高齢者の多い地域となっておりますが、マンション建設などで子育て世代も多くなっており、双方に力を入れていきたいと考えています。

事務局) さんくす図書館は JR 吹田駅前であり、開館時から JR やバスを使って、市内の各地域の利用者にご利用いただいています。お買いものの家族連れや新聞利用などの高齢者など幅広い利用層で、対面朗読もほぼ毎日実施しております。課題としては、若者向けの店舗や施設が少なく通過点になっていきますので、是非若年層に立ち寄ってもらえるポイントづくりを考えていきたいと思えます。スペースとしては比較的ゆったりしていますが、より一層くつろいでもらえるように、新聞閲覧コーナーを新設いたしました。また、同じさんくす駅前施設内にある就職支援施設「ジョブカフェすいた」と連携したサービスの展開を目指し、就職のための資格試験の参考書など、従来は図書館が収集してこなかった資料にも目を向けていきたいと考えています。

事務局) 江坂地域は、商業地域とオフィス街の他、マンションも多く子育て世代の利用も多い居住地域という 3 つの地域的特徴があります。また、劇団や専門学校も近くにあり、これらの特徴に配慮したサービス展開を目指しています。利用に際しての手続きを簡便化する等、気楽に利用できるシステムを考えて、ビジネスマンの利用促進を考えていきます。ビジネス支援サービスの充実の他、アート関連の専門学校と連携して、江坂公園を使ったイベントなどが考えられればとも考えております。

事務局) 千里山、佐井寺は古くからの集落と新興住宅地域の混在した地域ですが、関西大学も近いため、学生さんの利用も多く幅広い層の利用者が来館する図書館です。所蔵冊数は 8 年前の開館当初 5 万冊だったが、書庫機能を持っているため他館からの移管本の増加で、現在は約 20 万冊となっています。また、貸出点数は市内図書館の中で一番多い 51 万冊でございます。特徴としては、障がい者サービスの拠点館として、ボランティア育成に取り組んでいます。全国的視覚障害者向けのデジタル図書館であるサピエ図書館の総合目録への参加を目指します。また音訳図書の機器であるプレクストークの利用者向け講座なども力を入れていきたいと考えています。多目的室等を市民活動の場に提供しており、189 団体が登録しよく利用されています。今後は団体同士の交流や図書館講座などでの発表の場を設けるなどし

て、文化行事の活性化を図っていきたいと思います。情報コーナーもよく利用されており、ホームページの使い方やデータベース講座などを実施していきたいと考えています。

事務局) 山田駅前図書館は山田千里丘地域の拠点館として平成 23 年 3 月 27 日にオープンし青少年支援・子育て支援とのつながり、地域とのつながり、図書館ネットワークとのつながりをコンセプトとしています。交通の便がよく、また、マンションも多いため、幅広い層に利用されています。旧山田図書館は、山田駅前図書館の開館に伴い山田分室となり、駅前図書館と連携しながら地域により密着したサービスを提供してまいります。

議長) 報告について、何かご意見ご質問はございますか。

委員) 中央図書館でレファレンスサービスは、いつも懇切丁寧に対応していただき、とても大変ありがたい。方針でもその充実をあげられているが、ぜひ実現してほしい。ただし、E-レファレンスで毎回メールアドレスを入力しなければならないのは、改善をしていただきたい。いちど登録すれば、二度目以降個人情報を入れなくて良いようにしてほしい。

事務局) インターネット上からレファレンスサービスの申し込みをする場合の、手続きについての件ですね。今後、電算システム上可能か検討してまいります。

委員) 世の中が機械化、IT化しており、人と人とのつながりが希薄になっている。自分は「路地裏再生」ということを常に思うが、この方針を読むと意外と図書館サービスはそうでもないのかとも思う。人とのつながりを深めるような方法で、機械とのかかわり方や図書館のあり方を考えてほしい。

事務局) 現在図書館では、窓口業務の委託化や指定管理化の動きがあるが、基本的には、図書館の財産は図書と職員だと思っている。経費で図書館運営を考えることも必要だが、図書館で市民と接する中で温かみを感じていただける対応をする事は大事なことであり、職員自身も市民から見てどうかということであり、利用者の視点で仕事をするのが基本と考えています。

委員) 職員さんの心に少しでもとどめていただければありがたい。

委員) とても良い資料を提示していただいた。館ごとの奉仕対象が示されているが、それぞれの奉仕対象施設と、どのようなかかわりを持っているのでしょうか。また、対象施設のその他にはどのような施設があるのか。特に児童館とのかかわりが少なくてもったいないのではと思う。今後、具体的にどのようなかかわり方を考えているか。

事務局) 児童館はできた当初から図書館とのかかわりについて議論があった。所管の違いや予算の扱いなど様々な問題があり、図書館が直接かかわっていけなかった。現時点でも大きな問題だと認識しているが、今のところ小学校や学童のように関係が構築できていない。児童センターには市役所出前講

座の講師派遣という形で、何度か行っている。

委員) 様々な施設との連携を、今後の課題としていただきたい。福祉施設というのはどのようなものか、数は大変多いようだが。

事務局) 入所施設や通所施設など、さまざまな種類があつて施設数はかなり多くなっているようです。ただし図書館では具体的な利用人数が把握できていません。その他、小学校に比べ中学や高校との連携ができていないと認識しています。

事務局) 児童奉仕活動の中で、高槻市の例などを引きながら説明していますが、子どもの読書活動支援は専門職の司書の役割だと考えております。高槻市や豊中市でも、読書活動支援の仕事については、図書館の館長が兼務しているとのことです。吹田では窓口委託が一部導入されましたが、窓口以外での新しい課題に取り組んでいかなければならないと考えています。今いる職員で何とか知恵を出して実施していかなければならないと考えています。

議長) サービスのあり方とも関連した課題となると考えられるが、連携の在り方など、今後各委員からもご意見を頂戴したい。

委員) 図書館外とのつながり、外に出て行くことはより多くの人の目に触れることで重要と考える。江坂のアートイベントなど良いと思う、ぜひ実現してほしい。今日配られたリサイクル本フェアのチラシの中身だが、図書館海援隊プロジェクト参加やガンバ大阪との協力事業とは具体的にはどのようなものか。

事務局) 6月18日にガンバと横浜マリノスの試合があり、吹田市民応援デーとなっています。それに合わせて図書館海援隊プロジェクトの一環として、企画、開催するものです。中身は、リサイクル本フェアや図書館PRなどです。今後、ほかの形でも継続して取り組んでいきたいと計画しています。

委員) サッカーを知らない人にも興味を持って見てもらえるように、チラシの情報量やPRを増やしてほしい。

事務局) 図書館海援隊は文部科学省の取り組みです。図書館を利用していないサッカーファン、サッカーを見ない図書館利用者の双方へのアピールができればと考えています。

#### 4 今後の図書館施設整備やサービス展開の方向性について

議長) 前回、協議会で各委員の意見を集約したいという話が出た。今回と、次回とで各委員からご意見をいただき、話し合つて具体的な提案としてまとめて、図書館の今後の活動に反映していけたらと考える。今回は6名の委員から意見をいただいている。各委員から発表願いたい。

委員) 人情が薄れていく世の中における図書館サービスを考えて欲しいという思い

だ。中央図書館の建て替えについては、出口町の放置自転車の保管所がとてもよい場所にあるので、場所を入れ替えたかどうかと思う。高齢化で坂の上の中央図書館まで来館するのが困難な人も多いと思う。建替えを想定し、あらゆる機会、いろいろな場面で提案していくべきではないか。職員も減っており機械化も無理はないが、人情を第一にしてほしい。

議長) ご提言について、何かご意見ご質問はございますか。

委員) 未来というと、つい子どもを考えてしまうが、ご提案にあるような高齢者未来館的な発想も大事だと思う。

議長) では次の委員の発表をお願いします。

委員) 学校図書館は達成できていないものと言える。IT化への対応については日常利用の利便に結びつくものとして向上を望む。まず、検索システムに「全館でさがす」しかないのが不便だと感じる。所蔵館で絞り込んだ選択をしたい。HPのトップページにYahooやGoogleへのリンクがあるが、資料詳細から検索エンジンにリンクさせてほしい。「〇〇出版」など見たことがない出版社の場合に、すぐに検索できるように。豊中市立図書館では検索ページからWEB書店の「BK1」にリンクしていて驚いた。Amazonでは本によっては中身が見られる。民間のオンライン書店へのリンクがあれば便利だと思う。CMでみる「〇〇で検索」のような図書館ホームページの広告を市役所や病院等に張ってもらったら、すそ野が広がるのではないかと。24時間働く司書と言えるだろう。公民館やコミュニティセンター、児童センターに図書館の返却ポストや吹田市立図書館の図書が置いてあるといいと思う。

議長) ご提言について、何かご意見ご質問はございますか。

委員) 関連して、図書館ホームページのトップページで利用者情報などよく使うところが下のほうにあって画面スクロールしないと出ない。

委員) 画面上に「かんたん検索」の欄はある。トップページにYahooやGoogleのリンクがあることは無意味だと思う。サイト内検索の検索窓につけると良いのでは。「BK1」はアフィリエイトというシステムで、民間会社の収益の一部が図書館に還元されるものであるため、市の考え方がOKならば実施は可能だと思う。

議長) すぐに出来る事、出来ない事があるが、協議会でともに検討していきたい。

議長) では次の委員の発表をお願いします。

委員) 将来を展望した吹田図書館のあり方の指針を参考にした。その時点からは大きく進歩していると思うが、一部気になったのがヤングアダルトサービスと学校等との連携。この2点はほとんど進んでいないのではないかと。今年の基本方針を見ても、YAサービスについてほとんど触れられていない。図



書館側にアイデアがないのでは。データを調査したが、学校との連携サービスは進んでいないのではないかと考える。原因のひとつは、学校からのニーズがないのではないか、また学校図書館の実態もわからない。学校図書館が担えないものは市立図書館と協同していく事が大事。解決のためには人が大切。学校の教師や図書館司書、さらにマンパワーとして地域住民を巻き込むような取組みを協議会で提案出来ればよいと思う。

議長) 学校の状況について、委員の発言をお願いします。

委員) 中学校は図書館との連携がほとんどできていないのは事実。学校の中では、10年ほど前から「朝の10分読書」が普及している。次回までに実施状況を調べてくるが、現在校・前任校では実施していた。4つのルール「10分だけ。何を読んでもいい(マンガはダメ)。ただ読むだけ、読書感想文などの課題は課さない。みんなで読む(先生も)」。結果として、遅刻が減少し、1時間目の授業に静かに入れる、図書の貸出しが増えた。読書活動支援者(市の非常勤職員)が年の半分ほど学校図書室の整備や、小学校では読聞かせなどをしてくれる。学校内では読書離れへの取り組みは進んでいる。図書館との連携の問題では、図書館訪問の時間が取れない。授業時数の確保を文部科学省から厳しく言われており、図書館への往復時間は含まれないため、支障が出てくる。図書館の支援は欲しいが、図書館が何をしてもらえるのかがわからない。逆に言うと、図書館は学校の先生が何をしたいかがわからない。お互いにわからない部分を埋めていかなければならないと感じている。

議長) 大事な課題として引き続き議論したい。

議長) では次の委員の発表をお願いします。

委員) 高齢者や幼児など図書館に行きにくい人たちについて述べる。今ある図書館は結構だが、図書館と図書館のすきまに住んでいて、行けない人が多い。地区公民館や児童センターなどに、絵本や高齢者向けの本を2~3千冊集めた小さなコーナーを作ったり、小中学校もIT化して図書館と情報を合体させて、学校にない本だけ置いてもいいのではないか。司書の資格を持った地域のボランティアに、本の取扱業務を任せて運営すればできるのではないか。公民館にも図書室があるが、本が置いてあるだけで活用できていない。図書館によみかせ講座をしてもらったりして活用したい。

議長) では次の委員の発表をお願いします。

委員) 青山台文庫を38年間やってきた、自治会に所属せずに集会所をお借りして100人以上の子ども達が来てくれている。赤ちゃんに絵本を読む会や、小学生低学年と高学年の読書会、お母さんたちと絵本や児童文学を読む会などの自主的活動を行っている。また個人的には大英図書館に6年間通い詰

めた経験から、図書館サービスは誰に対しても平等であると学ぶとともに、今ここで生きている人を大事にする事や、過去を記録し未来へつなぎ平和に貢献することが大事だと感じています。次に、学校図書館の問題は人が大事です、今後の当協議会議論の課題として考えてほしい。児童センターの他、病院等へのサービスも考えられる。図書館内での子どもたちへのフロアワークをもっとしてほしい。親への配慮や配架の工夫も必要。NDC 順配列だけでなく、たとえば「子育て」など、よく聞かれる本はすぐに手に取れる場所に配架するとわかりやすいのでは。また、坂本委員もおっしゃったように、本を貸すだけではなく、安心できほっとできる所でもあってほしい、と願っています。

議長) では次の委員の発表をお願いします。

委員) 3点ある。まず、収集保存について。デジタル情報の時代で、国会図書館でもデジタル化が進んでいる。例えば、吹田市の統計などの地域情報は、PDF か電子テキストで保存するやり方もある。今回の震災を見ても、紙媒体の保存だけではなく、デジタル保存を考えてはどうかと思う。二つ目に評価の問題が考えられる。実際にはの一所懸命やってる仕事の報告なのだが、数字や文書だけでなく見やすくしたり、HP の見せ方も工夫されたらと思う。三つ目に危機管理の問題がある。建物の耐震診断などを市民に公表したらどうか。堺市はこどものスペースにカメラをつけた。監視カメラの是非はともかく、クレーマーやストーカーのようなケースもあるという危機認識が必要。発生件数などを公開していくと、館内の利用ルールに関してもお互いに納得できるようになるのではないかな。

議長) 次回、まだ発表のない委員の分も含めて、検討していきたい。では次第の5に移ります。事務局から説明をお願いします。

## 5 その他

### (1) 山田駅前図書館の開館以降の運営状況について

事務局) 3月27日開館しましたが、3月の4日間で13,830点の貸出があり、1日平均3,500点となります。千里山・佐井寺図書館の開館時は1日平均1,670点だったので、その倍以上という盛況です。初日は列が続くなど大忙しで、初日で3分の1強の資料が貸出された。書架に本がない状態が現在も続いておりますが、市内各図書館から絵本などを借用して対応している。4月に入り利用状況は落ち着いてきており、1日平均1,800点の貸出、土日は2,800点ほどとなっております。利用者層は施設の性格も反映し、親子連れの利用や小中高生の利用が多い。窓口業務の一部委託を導入し、職員は相談窓口でレファレンスを担当しています。4月末までに約1,000件の受付があった。4月からは、館内行事等も本格化しブックスタートなどの行事

も開催しており、1階の「のびのび子育てプラザ」の声かけのおかげもあり、延べ 324 人の参加がありました。今後も増加していくと思われます。自治会からの取材などもあり、地域の方にも大変関心をもっていただいています。今後、どのように地域と係わっていくかを課題と感じています。駅前図書館では、入ってすぐの場所に「子育て情報コーナー」を設置しているが、利用が多くほとんどの資料が貸出され本がほとんど残っていない状態です。このコーナーの充実も今後の課題と考えております。

議長) 何かご意見ご質問はございますか。なければ次の項目に移ります。

## (2) 吹田市と豊中市の広域利用（試行）の運用状況について

事務局) 4月1日より登録開始、5月1日から貸出開始いたしました。吹田市・豊中市の広域利用に関する利用統計（速報版）を元にご説明しますと、吹田市では千里図書館が、豊中市では千里図書館の利用がともに多く、近隣の地域住民の利用が中心となっています。両市とも駅から離れた図書館は利用が少ない傾向にあります。

議長) 何かご意見ご質問はございますか。なければ次の項目に移ります。

## (3) 次回の日程について

事務局) 9月を予定している。いずれかの水曜日で調整させていただきます。

議長) その他何かご意見等ございますか。

## (4) その他

委員) 今年から本の貸出方法等が変わったが、トラブル等はなかったか。

事務局) 貸出期間の短縮について数件のご意見・ご質問をいただいた。アナウンスはしたが、理由をきちんとお知らせできていなかったと反省している。予約の受付件数はどこにも明示していなかったが、今回はっきり明示して PR したが、件数減少について使い勝手が悪いというご意見はちょうだいした。少ない図書費の有効活用と、人気の本の予約待ちの期間をいかに短くするか、ということの主眼に提案させていただきました。結果の検証をしていく中で、今後の方向について再検討もあり得るのではないかと考えています。

議長) 本日はこれにて閉会します。